浦賀レンガドック周辺区域の利活用

令和５年２月

横 須 賀 市

事業内容

令和３年３月に住友重機械工業株式会社から寄附を受けた浦賀レンガドックは、明治32年(1899年)に建造されて平成15年(2003年)に閉鎖されるまで1,000隻以上の船の製造や修理を行ってきた歴史のある造船所で、レンガ造りのドライドックとしては日本では浦賀にしか現存していない貴重な施設である。

この浦賀レンガドックを保存活用するとともにその周辺区域とあわせて、海洋都市横須賀の実現に向けた重要拠点となるよう民官連携により整備したい。

浦賀ドックの位置

出典：Google Map

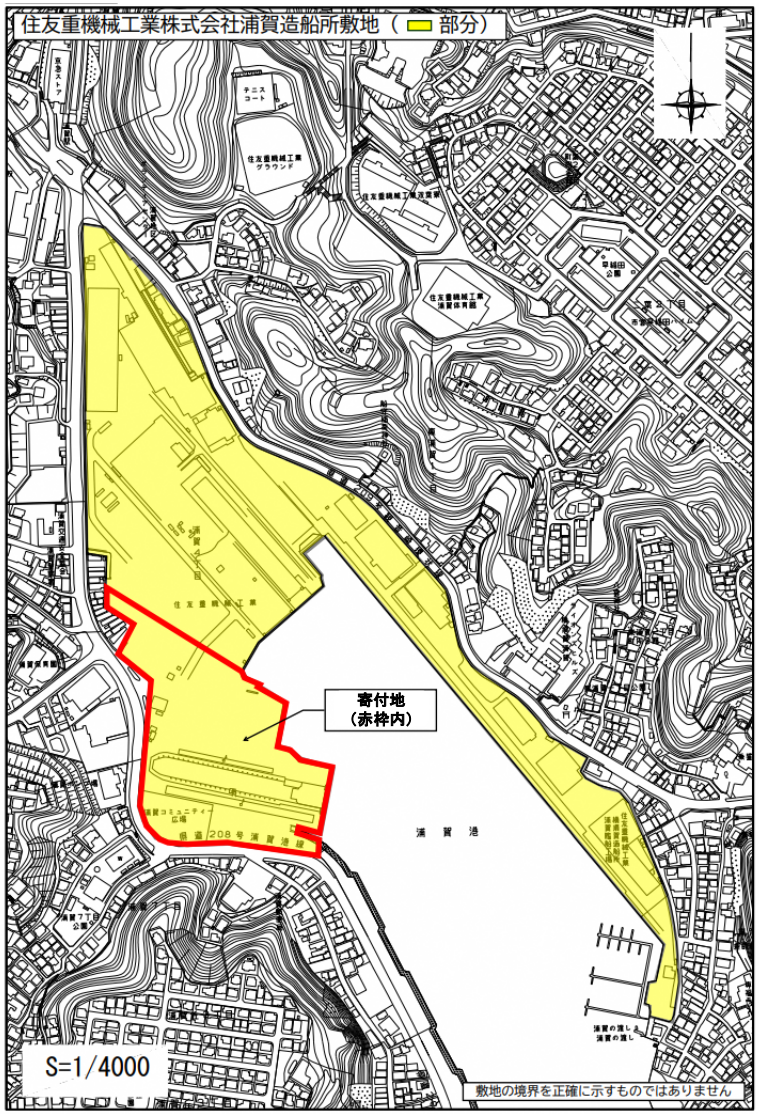
アクセス

- 京急線　品川駅-浦賀駅　約 55 分
- 京急線　羽田空港-浦賀駅　約 60 分
- 京急線　横浜駅-浦賀駅　約 40 分
- 高速道路　羽田空港-浦賀 IC　約 50 分
- 京急線浦賀駅から徒歩　約12分

敷地概要

　一世紀以上にわたって約1,000隻にのぼる艦船等を建造してきた住友重機械工業株式会社旧浦賀艦船工場の跡地であり、平成15年（2003年）に閉鎖されました。
　令和3年3月26日、この敷地の一部（右図の赤枠内）が住友重機械工業株式会社から横須賀市に寄附されました。

所在：横須賀市浦賀町4-7-1ほか
敷地面積：27,789.7 ㎡
用途地域：工業地域
建蔽率／容積率：60/200
地域地区：臨港地区・工業港区、第2種高度地区(20m 制限)、都市機能誘導区域外、居住誘導区域外
港湾計画：工業用地
前面道路：建築基準法第42条第1項第1号道路（県道208号）に接道
・コミュニティ広場にはレンガドック活用センター（193.77㎡）あり
・敷地内に生協の駐車場あり。



敷地概要

Google Mapによる航空写真（現在の建物配置と異なります。）

出典：google Map

建設可能・不可能な施設の整理

2021年10月現在、工業地域、臨港地区に位置付けられています。建築可能・不可能な施設は、以下のとおりです。

No.	項目	建設可否	
		工業地域	臨港地区
1	住宅、共同住宅、寄宿舎、下宿	○	×
2	店舗	○	△ （市長が指定する商店及び飲食店は○）
3	事務所	○	△ （税関、地方運輸局、港湾建設局、海上保安部、検疫所、入国管理事務所その他市長が指定する官公署の事務所は○）
4	ホテル、旅館	×	×
5	学校	×	×
6	遊戯施設・風俗施設（ボーリング場、スケート場、水泳場、ゴルフ練習場）	○	△ （船舶乗組員及び港湾における労働者の診療所、その他の福利厚生施設は○）
7	遊戯施設・風俗施設（劇場、映画館　等）	×	
8	図書館	○	
9	病院	×	×
10	診療所、保育所、老人ホーム、身体障害者福祉ホーム等	○	△ （船舶乗組員及び港湾における労働者の診療所、その他の福利厚生施設は○）
11	車庫、倉庫	○	○
12	工場	○	△ （原料又は製品の一部の輸送を海上運送又は港湾運送に依存する製造事業は○）
13	外郭施設（防波堤、防砂堤、防潮堤　等）	-	○
14	係留施設（岸壁、桟橋　等）	-	○
15	臨港交通施設（道路、駐車場、橋梁、鉄道　等）	駐車場は○	○
16	港湾情報提供施設（案内施設、見学施設、見学施設　等）	○	○
17	港湾環境整備施設（海浜、緑地、広場、植栽、休憩所　等）	○	○

現状の取り組み

□「浦賀レンガドック周辺区域活用調査」の実施

・立地ポテンシャル分析
・アンケート・ヒアリングによる「新たな施設の進出可能性調査」

□ 短期利活用・実証実験

「浦賀」の認知度を上げるとともに機運を醸成するため様々な取り組みを実施する予定

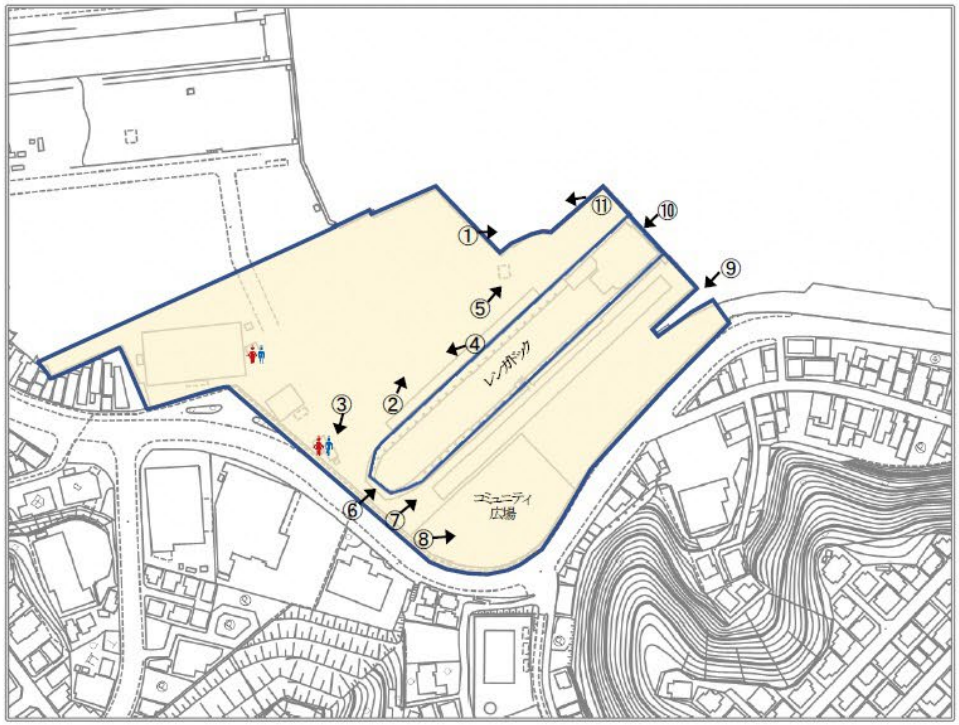
MEGURU Project

2022.11.12～2022.12.11

- ◆ レンガドックの一般公開
- ◆ 浦賀ドック発着のクルージングツアー
- ◆ 浦賀上空の熱気球飛行
- ◆ 浦賀謎解き街あるき
- ◆ ドック内部にステージと客席を設け「浦賀ドックシアター」としてライブや映画を提供

参考情報

浦賀レンガドック　現地写真



トイレ2か所どちらも
男性用：洋式1基,和式1基,小便器4基
女性用：洋式1基,和式1基
だれでもトイレ1基

浦賀レンガドック　現地写真

ポンプ室

盤木

参考情報

■浦賀地区情報（H30年度）

・地区人口　44,656人（市内の11.3%）
・京急線・浦賀駅乗客数　3,811,367人（年間）、10,537人（１日）
・横浜横須賀道路浦賀IC・馬堀IC利用台数　2,267,484台（年間）、6,209台（１日）
・観音崎公園利用者数　767,308人（年間）
・横須賀美術館来館者数　107,389人（年間）

■横須賀市域観光客数情報（H30年度）

・延宿泊客数　383,975人
・日帰り客数　8,187,538人
・観光客宿泊費　3,005,453千円
・飲食費消費額　1,771,532千円
・その他消費額　909,819千円
・観光バス利用状況　10,026台

■浦賀地区イベント

・咸臨丸フェスティバル（例年４・５月予定、約30,000人来場）
・浦賀みなと祭り（例年8月予定、約35,000人来場）
・観音崎フェスタ（例年11月３日予定、約30,000人来場）
・浦賀奉行所開設300周年記念イベント（2021年10月予定）

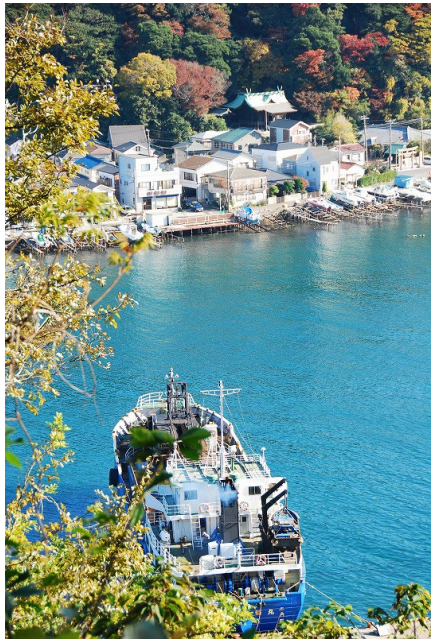
咸臨丸フェスティバル

参考情報

■海

東京湾では安全な海上交通のため、50m以上の船舶は浦賀水道航路、中ノ瀬航路を通航することとなっています。

50m以下のプレジャーボートなどは、この航路外の航行が推奨されており、通航量の多い東京湾において、浦賀以南は両航路に抵触せず、安全にクルーズを楽しめる場所です 。



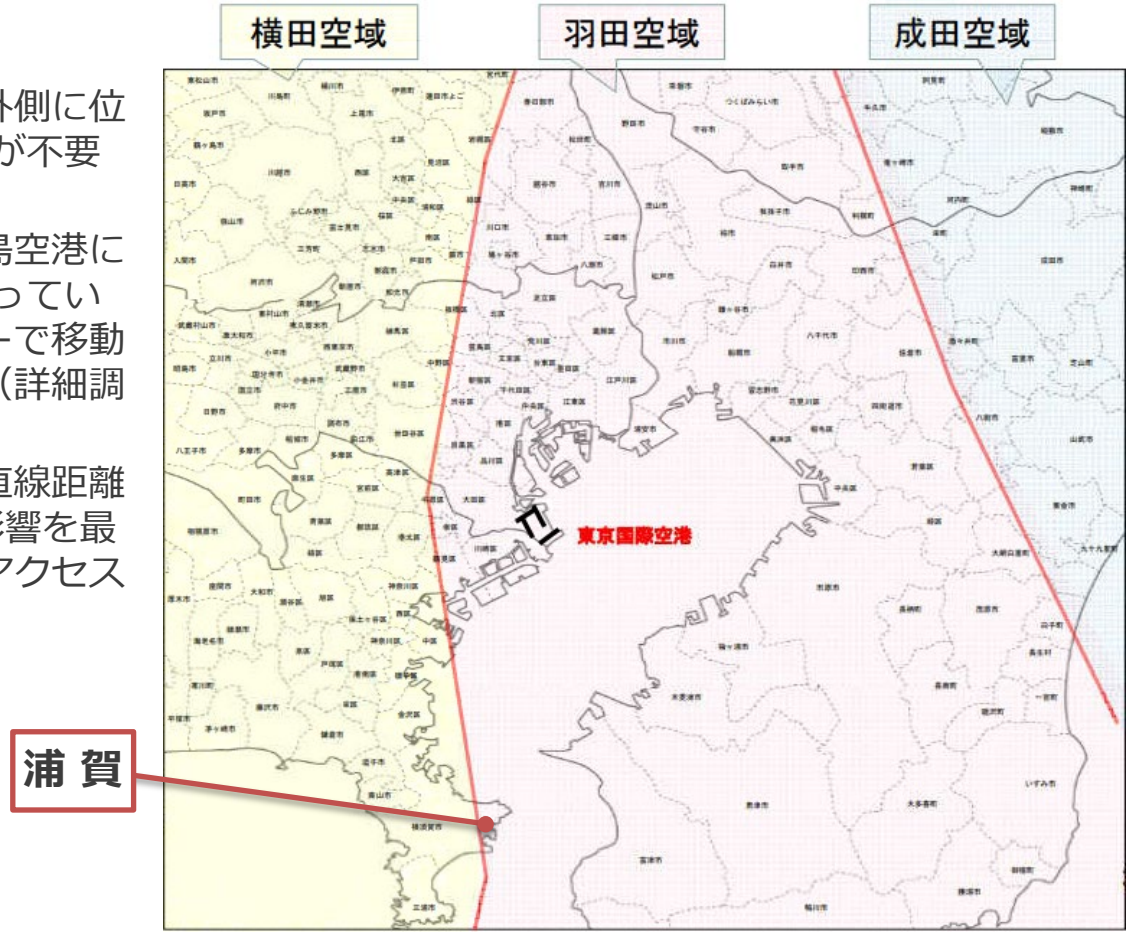
参考情報

■空

観音崎・浦賀付近は横田空域の外側に位置するため、 米軍との協議・調整が不要な立地です。

例えば、ビジネスジェットで大島空港に着陸し、そこから 、先に浦賀に送っていたスーパーヨットまでヘリコプターで移動することも可能と考えられます。（詳細調査必要）

また、羽田空港から浦賀へは、直線距離で約35kmであり、民家に及ぼす影響を最小限に抑え、海上を飛行しながらアクセス可能な立地です。



出典：国土交通省 首都圏空港の機能強化に係る検討について
https://www.mlit.go.jp/common/001018977.pdf

浦賀レンガドック及び周辺地域の歴史

浦賀ドックの希少性・歴史的価値

■世界で4つしかないとされるレンガ積みドライドックの一つです。

1．浦賀ドック（神奈川県横須賀市）
2．川間ドック（神奈川県横須賀市）
3．オランダ・アムステルダム郊外のデン・ヘルダー
4．オランダ・ロッテルダム・ヘルフースルイス郊外

出典：ヴェラシスマリーナ　浦賀ダイビングセンター

出典：Wikipedia

出典：Droogdok Jan Blanken

■経済産業省の近代化産業遺産群に指定されています。

■重要文化財の指定、有形文化財（建造物）登録について検討中です。

参考：・日本のものづくりは世界の財産であるWebサイト　・Droogdok Jan Blanken
・Groot Hellevoet.nl , ” Hellevoets Stadsmuseum over de roemruchte maritieme en marinegeschiedenis”

浦賀における歴史の整理

時期	内容	備考
1604（慶長9）年以降	スペイン船が浦賀に入港	徳川家康はスペイン船を浦賀に誘致しており、江戸時代の鎖国が始まる直前の一時期、浦賀はスペインとの貿易港であった。1600年（慶長5年）に現在の大分県臼杵に着岸し、家康の外交顧問として活躍したウィリアム・アダムス（三浦按針）も大きく関わっている。
1720（享保5）年12月	浦賀奉行所が下田（現・静岡県下田市）から機能を移転して新設	2017年、奉行所跡地が住友重機械工業から市に無償寄付。 2020年：300周年
1853（嘉永6）年6月3日	ペリー提督が率いるアメリカの軍艦4隻が浦賀沖に来航	最初にペリー艦隊と交渉をしたのは、浦賀奉行所の与力中島三郎助と通訳の堀達之助
1853（嘉永6）年8月	初の国産洋式軍艦「鳳凰丸」の建造を幕府に願い出る。 浦賀造船所の設置。	浦賀奉行2名は幕府の老中に対して軍艦の建造を願い出ました。これを受けた幕府は浦賀での軍艦建造を命じ、現在の浦賀ドック付近で初の国産洋式軍艦「鳳凰丸」が浦賀奉行所の役人により建造され、翌年に完成。 浦賀造船所は、横須賀港に製鉄所が建設されたことから1876年（明治9年）に閉鎖。
1896年	浦賀船渠株式会社　創設	明治24年（1891年）中島三郎助23回忌にあたり、旧船番所裏手の愛宕山に招魂碑が建てられ、その除幕式の席でかつて函館戦争のときの同志であった荒井郁之助（函館での海軍奉行）が「中島三郎助のために浦賀に造船所を造ったらどうか」と提唱し、榎本武揚は即座に賛成して地元の有力者に働きかけ、鳳凰丸建造から約40年後の明治29年（1896年）に浦賀船渠株式会社が創設された。
1899年	浦賀船渠（ドック）建造	2019年：開設120周年
1969年6月	浦賀船渠株式会社が住友重機械工業株式会社に合併	
2003年	浦賀ドック　閉鎖	

出典：横須賀市Webサイト

横須賀市及び浦賀地域における歴史的経緯・価値

昔、横須賀の中心は現在の中心市街地ではなく、浦賀が海の玄関口であり、三浦半島の中心地だった。その後、江戸時代の終わりに製鉄所などができ、横須賀が発展していった。

（1）江戸時代：徳川家康と三浦按針（年表）

戦国時代

浦賀は、中世から良港として知られており、戦国時代には北条氏の大きな水軍基地があったといわれている。真福寺や東福寺をはじめとする寺社が中世には創建されている。

1590年（天正18年）

北条氏が豊臣秀吉によって制圧され、その領地を徳川家康に与えたことにより、浦賀も家康の領地となった。

江戸時代

オランダ船リーフデ号で1600年に日本に渡来したイギリス人ウィリアム・アダムス（後に三浦按針と名乗る）を徳川家康は重用し、自らの家臣にして浦賀の地に領地を与えた。
鎖国が始まる直前の一時期、家康は浦賀をスペイン船の受入港としていた。
布教を迫るスペイン人との交渉の仲介役としても、外交顧問・三浦按針を活用していたようだ。船乗りであった按針は造船の技術も幕府に伝授し、後の造船の町・浦賀の礎を築いたと言える。駅名にもなった安針塚や、寄宿した西逸見町の浄土寺などに今も按針の残した足跡が刻まれている。

開国～明治時代

近代～現代

※近世以降の浦賀の歴史は、3つの時代に大きく分けられると考えられる。

横須賀市及び浦賀地域における歴史的経緯・価値

（2）開国～明治時代：黒船ペリー来航【年表】

米国国書受領之図

1801年
19世紀に入って相次ぐ外国船の来航により、東京湾の入口に置かれた浦賀奉行所は防衛の最前線基地になるとともに外交交渉の窓口ともなった。

1853年
ペリー黒船来航（１回目）
黒船来航を経験した幕府は造船技術の重要性を痛感し、1853年、2名の浦賀奉行・戸田氏栄と井戸弘道が請願した洋式軍艦の建造を許可。

1854年
ペリー黒船来航（２回目）
浦賀の地名は日本の近代史に刻まれることになる。ペリーら使節団との交渉・日米和親条約の締結に際しては、中島三郎助をはじめとする浦賀奉行所の与力・同心などの役人が中心的な役割を果たした。
最初の軍艦「鳳凰丸」が建造。

1860年
点検のため「咸臨丸」は、浦賀ドックに入った。日米修好通商条約締結のためサンフランシスコに向かい、太平洋を横断した日本で最初の船となった。

1869年
明治天皇が東京に入り、首都が京都から移った。明治新政府が首都を江戸に決めた要因の一つに、大型船舶の製造・修理ができる港の機能が横須賀製鉄所にあったことが決め手になったと言われている。

1876年
浦賀造船所閉鎖

1891年
中島三郎助23回忌に、旧船番所裏手の愛宕山に招魂碑が建てられる。その除幕式の席でかつて函館戦争のときの同志であった荒井郁之助（函館での海軍奉行）が「中島三郎助のために浦賀に造船所を造ったらどうか」と提唱。

1896年
浦賀船渠株式会社創設

1899年
浦賀船渠（ドック）が建造。
現在の住友重機械工業浦賀艦船工場に受け継がれている

ペリー記念館

咸臨丸

鳳凰丸の模型

横須賀市及び浦賀地域における歴史的経緯・価値

（3）近代～現代：造船の町としての発展とこれから【年表】

明治から大正、昭和にかけての浦賀の町は、造船の町であり、浦賀船渠（1969年に合併。合併後は住友重機械工業）の企業城下町という色合いが強かった。特に賑わったのは大正期から昭和30年代までにかけてとされている。

1907年
横須賀市全体に目を向けると、1907年に市制に移行。1930～40年代に周辺の町村を合併。

1930年
湘南電鉄が横浜の黄金町～浦賀間の運転を開始。

1933年
品川まで延伸。これが現在の京浜急行電鉄である。

1943年
浦賀は、1943年に合併され横須賀市に。

1945年
第二次世界大戦の敗戦直後、連合軍が横須賀に進駐。

1951年
横須賀港が重要港湾に指定され、戦後は港湾都市として発展。

1952年
米国極東海軍司令部が東京から横須賀に移転。

1969年
浦賀船渠は、1969年に合併。（合併後は住友重機械工業）